

岩手県盛岡市方言の副助詞

本堂 寛

1. はじめに

1. 調査対象地：岩手県盛岡市は、岩手県の県庁所在地で、県のほぼ中央に位置する、人口約28万人の中都市である。かつての城下町であり大きな産業もないため、やや保守的閉鎖的な傾向があり、今も方言による言語生活がかなり行われている。近隣の地域の人々は盛岡で買い物をすることが多いので、盛岡方言が広域に使われている。
2. 調査年月日：1998年1月4日 午後3時20分～5時15分
3. 教示者：大崎和子 昭和2年12月24日生（70歳）
4. 調査者・調査場所：本堂 寛，話者宅
5. 調査方法：統一調査票による質問調査
6. 表記方法：①ワープロの打ち込みの関係で、高い部分のアクセントは下線で示す。
②話者のコメントは（ ）で、調査者の解説は〔 〕で、それぞれ示す。

II. 調査結果

(1) 添加・例示・提題などをあらわすもの

A. 添加《さえも・も》

1. アメダゲデネアグ カソ ジエマソデモ フイデキタ
2. コドスハ [ha] ホーサグデ コメダゲデネアグ ムギモ ヨグ トレダ

B. 予想外の事実《さえ・だけ》

3. ショーガクセーデモ ラグニ ワープロ ツカッテル
4. アダルド オモッテネガッタガラ オモシエ

C. 条件《さえ》

5. ヒマセア アレバ ツリサ イッッテル

D. 例示《でも・ほど・まで・など・やら・なり・なんて》

6. マソツ オジャグレア ノソデクナンシエ
7. ミセゲサバ コノ マソ ジュッコナンカ ナソ ジョダベ
8. マソツ ドデソスルグレア オモシエガッタ
9. マッサガ オメサンマデ ツタワルド オモワネガッタ
10. ナグッタリ ケッタリ ヒデアゴド シタ
12. アオモノナンカ ナンボデモ デギル

一対の語の例示《だって》

13. ショーユダッテ ミソダッテ ツグッテダンダ

択一《なり》

14. ワダシガ シャデーガ テ カシサ ウガガイヤンス

例外でない《とて》

15. ソンチョサンダッテ ソレイゲ シカダ ネア ガッタベア

列挙《も》

16. ハルラシグ ナッテ ウメモ サグラモ イッショニ サイダ

同類の暗示《も》

17. テレビモ ソロソロ カイカエルベガ

やわらげ《でも》

18. マソツ オジャデモ アガッテクナンシェ

E. 包括《など》

19. ボンニハ[ha] ワラシャドドガ マゴダジドガ ケアッテクル

F. 提題《だって》

20. ゲートボールダッテ ヤレルオソ

話題にあげる《って》

21. ナニス イーゴドズノワ

極端なものの提示《でも・くらい・すら・も》

22. ソンタナゴド ワラスデモ ヤレル

23. クーゴドグレア ナソトガ シテア

24. ナメア セア ログニ オベアデネア

25. ヒルメシデアサ センエンモ カガッタ

軽いものをあげる《さえ》

26. コイズセア アレバ ハ[ha] イー

(2) 分量・程度・基準などをあらわすもの

G. 分量・程度《ほど・くらい・ばかり》

27. リョコーデ ミッカバガリ エ アゲダ(グレアも使うがやや改まった言い方)

28. チャワンサ ハンブンバガリ クナンシェ(グレアも使うがやや改まった言い方)

29. ワラシデモ ワガルグレア ノ ワガリヤス ショモツダ

30. イッシュカンバガリ デガゲルハソテ アド ヨロシグ

H. 基準《ほど》

31. コドシノ シバレガダ キョネンホドデネア(グレアも普通に使う。)

I. 理由《ばかり》

32. ビヤコ キ ユルメダガラ ヘンタナゴドニ ナッテシマツタ

J. 「それにふさわしく」《だけ》

33. ナソ ギシタダゲニ コンジョ イー

形式名詞的用法《なんか》

34. マイニジ マゴ アヤスゴドナソ カデ イソガシ(ナンカも使うが、ナドが多い)

「それこそ」《こそ》

35. マルソ デ バケツ カッチャマゲダミテナ アメダ

「～ばかりか」《ばかり》

36. オドバリテネグ ガガモ ウソド スギダ

K. 今にも行われる《ばかり》

37. ハ[ha] クーバリニ シテル

動作の完了直後《ばかり》

38. イマ シゴドガラ モドッタバリダ

基準《まで》

39. テシャバマデ ハ[ha] チョットゴマダ

L. 等量の反復《ずつ》

40. ヒトリズズ ヨバツテ シャベツタ

M. 等量の配分《ずつ》

41. ヒトリサ フタツツズ ミガシハ[ha] ケル

(3) 限定・限界などをあらわすもの

N. 限定《しか・だけ・ばかり・きり》

42. サゲハ[ha] タマニシカ ノマネテ

43. ケサハ[ha] オソグオギデ パンバリ クツテキタ

44. ソンタニ ベンキョバリ シテルド カラダサ ワルヨ

45. エノ タ ノゴツテルダゲデ ホガハ[ha] ミソナ オワツタヨ

O. 強調《しか・こそ》

46. ハ[ha] コレダゲシカ ネテヨ

47. コドシゴソ イー トシサ シテテ [ゴソよりもハ[ha]が一般的のようである]

P. 限界《だけ・まで》

48. コレダゲ シャベツテモ ワガラネテノガ

49. ニセソ エングレマデダラ ナソトガ ナル

(4) 陳述的なもの

Q. 「～ば～だけ」《だけ》

50. コヤシ ヤレバ ヤルダゲ ヨグ オガル

「假定形・ば・こそ」《こそ》

51. シソ ペア スガラ シャベルンダ

「こそ・假定形」《こそ》

52. アノヒトハ[ha] モンクダゲ シャベッテ ヒトノ シャベル ゴドナンカ キカネア

53. ない

「未然形・ば・こそ」《こそ》

54. オシテモ ヒーデモ ウゴガネア

「～こそ。」《こそ》

55. ワルゴドバ シャベラネアデ オグ

「～こそ～が」《こそ》

56. イマハ[ha] エガラ デネドモ ムガシハ[ha] ヨグ デアルッタモノダ

「～ば～ほど」《ほど》

57. カシエゲバ カシエグダゲ モーガル

R. 打ち消しとの呼応《まで》

58. ソンチョサンサ キグマデモ ネア ゴドダ

否定との呼応(それさえもない)《も》

59. アサガラ イソガシクテ ヒルメシモ クエネア

否定的取り上げ《など》

60. コソ タナモノナンカ ナンボデモ アルヨ

全面否定《だって》

61. ダレダッテ ソンタナゴド シャベラレダラ ゴシャグヨ

S. 次の動作が不可能《きり》

62. ジューネンメア ムラ デデガラ イッケアモ ケアッテキテネア

(5) モドリテイー的なもの

T. 不確かな気持ち《やら・か》

63. イズノマニガ ネッテシマツタ

64. ナソ ノゴドダガ サッパリ ワガラネア

推定《か》

65. アドデ アソビサ イグガモシレネア

どちらか分からない《やら》

66. クルノダガ コネアノダガ サッパリ ワガラネア

はっきり言わない《やら》

67. ドゴサガ ヒッコシタズ

U. 非難《たら・てば》

68. オドサンタラ キョーモ オセナ

69. オドサンテバ ワラシッコミデナゴド シャベッテ

Ⅲ. 総括（まとめ）

1. 共通語の基盤となっている東京方言と同じ東日本方言の一つであるためか、共通語と共通する表現がかなり多くみられた。
2. 一方、質問項目に示された文章語的な微妙な言い分けがあまりなく、単純でおおまかな表現も多かった。